

令和3年度病害虫発生予察指導情報  
 対象病害虫：ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ（野菜）

令和3年5月27日  
 鳥取県病害虫防除所

1 発生状況

(1) ハスモンヨトウ

5月第4半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、平年に比べ多い。

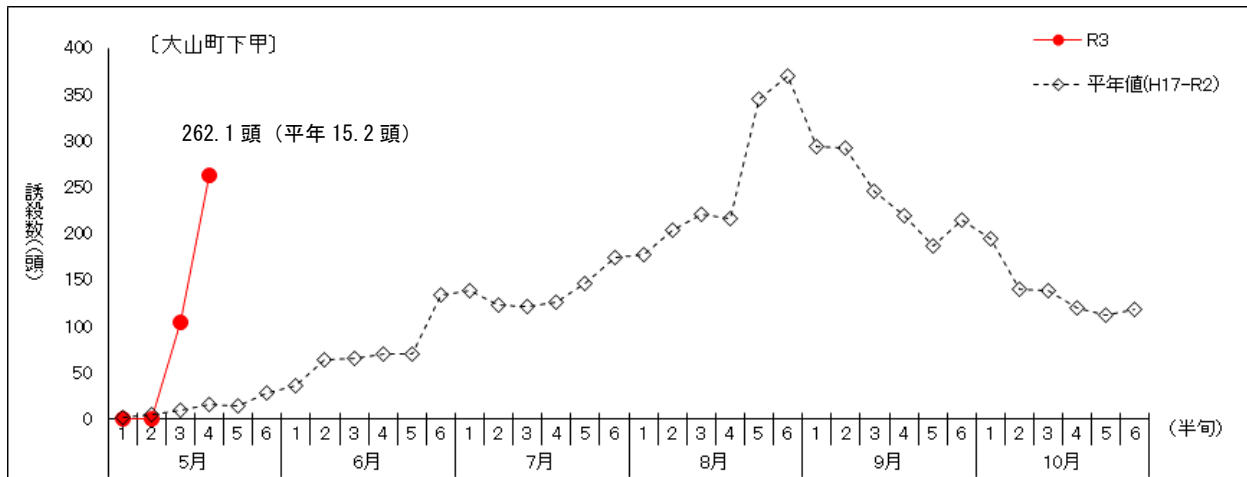


図1-1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：大山町下甲）

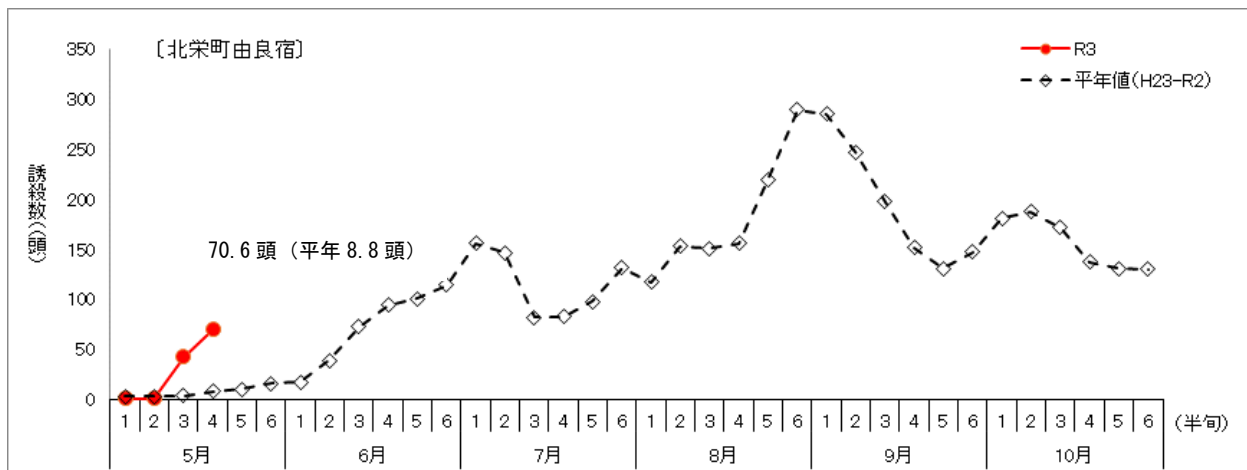


図1-2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：北栄町由良宿）

## (2) シロイチモジヨトウ

5月第4半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、平年に比べ多い。

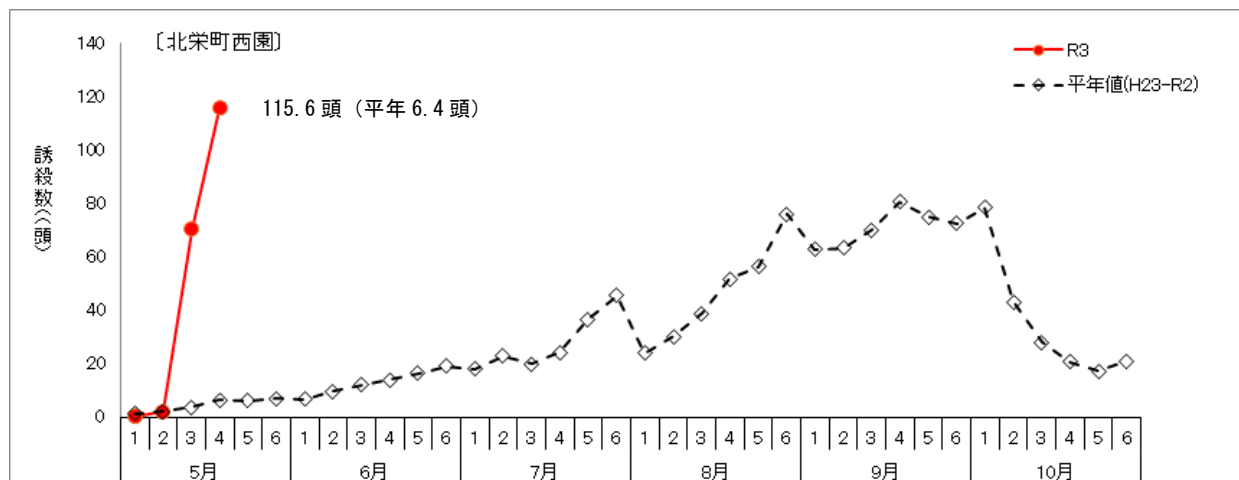


図2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数（調査地点：北栄町西園）

- (3) 5月25日現在、園芸試験場のほ場及び大山町のブロッコリーほ場では、チョウ目害虫による葉の食害が一部確認されているが、他地域では被害は確認されていない。また、白ネギでは被害は確認されていない。
- (4) 誘殺数が増えているので、今後、次世代の産卵数および食害被害が増加することが懸念される。

## 2 防除上注意すべき事項

### (1) 野菜

- ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫（体長1 cm以下）のうちに防除を行う。食害痕がみられはじめる頃が防除適期である。
- イ 食害痕は不整形の白斑となり、さらにかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕が目立つ株に注意する。
- ウ 食害痕および若齢幼虫の発生が見られた場合には、病害虫防除指針等を参照し薬剤防除を行う。